2026.10.27

epi.2 クレア派遣通信

「フランスの秋といえば…“伝統的なぶどう収穫作業”に参加しました」

フランスでは、夏のバカンスが終わる頃になると、各地のワイン産地でぶどうの収穫期「ヴァンダンジュ（vendanges）」を迎えます。日本でもボジョレー・ヌーヴォーで有名なボジョレー地方で行われたぶどう収穫体験プログラムに先日参加し、地域の農家の方々とともにぶどうの収穫を行いました。

フランスの季節労働制度とボジョレーの丘で感じた“地域と人のつながり”

今回参加したのは、ボジョレー観光局が企画する「Immersion au cœur des vendanges（収穫期の没入体験）」というプログラムです。

フランスには「ヴァンダンジュ契約」という季節労働制度があり、収穫期に多くの人手を確保できる仕組みが整備されています。この制度によって、毎年多くの人が収穫に参加し、地域の農業を支えるだけでなく、農家と参加者の間に継続的な交流が生まれることで関係人口の創出にも寄与しています。収穫後は農家の敷地内にて、地元のチーズやハム等とともに新鮮なぶどうジュースをいただき、まさに“地域に溶け込む”体験となりました。

今年は熱波の影響でぶどうの成熟が早まり、私が参加した時点ではすでに本格的な収穫は終わっていました。それでも農家の方々は、畑の状況や今年の気候の影響について丁寧に説明してくださり、収穫期の雰囲気や農家の仕事の流れを体験することができました。

「今年は暑さで収穫が早まったんだ。こんな年は珍しいよ。」と話す農家の方の言葉から、気候変動が農業に与える影響の大きさを改めて実感しました。



収穫後、ぶどうの糖度とアルコール度数を測定する様子



ボジョレー・ヌーヴォーで有名なボジョレーのぶどう畑



ぶどうが発酵している様子



収穫後のぶどうを発酵させる工程の様子

ヴァンダンジュ体験から感じたこと



今回の体験を通じて、私は日本の農業のことを自然と思い返しました。日本でも地域によっては農作物の作付けや収穫時期に多くの人手が必要となること、農作物の品質が高く、農家の経験や技術、丁寧な仕事が品質を左右する点で、フランスのぶどう作りと共通する部分が多くあります。日本の農家でも、繁忙期には家族総出で作業を行ったり、地域の人が短期間手伝ったりするなど、地域ぐるみで農業を支える姿が見られます。

こうした光景は、ヴァンダンジュで季節労働者が地域に入り込み、農家と協力しながら収穫を進める姿と重なりました。また、農業者の高齢化や担い手不足など農業を取り巻く課題に向き合う必要性を肌で感じました。

津市の農業政策について



ちょうど今月の広報つ（令和８年10月号）に「地域一体で育む津市の『農』」というタイトルで農業政策について掲載されていますが、津市においては12地域で農業関係者が集まり、地域の農地や農業の課題等について議論し、施策につなげる「令和版営農会議」と、そこから生まれた津市独自の支援策（農作業機械の修繕費の補助、法人化や人材雇用の促進等）や将来の農地を守っていくための「地域計画」の策定など、地域ごとに異なる課題や細かなニーズに対応するための取組や支援が行われています。

農業を取り巻く環境が大きく変わる今、津市では農業を次の世代へつないでいくために多くの方々が真剣に取り組まれており、今回のヴァンダンジュ体験やその他のフランスでの食や農業に関する経験や学びを、帰国後のさまざまな業務や地域との関わりの中で活かすことができたら嬉しいなと思いました。

気になる！？　クレア派遣の基準となる語学力

クレア派遣は３年間で、例えば私の場合は、令和７年度の１年間はクレアの東京事務所での勤務、令和８～９年度の２年間はパリ事務所での勤務となっています。

クレア派遣の選考は、東京事務所への派遣の１年前に始まります。令和６年４月に庁内でクレア派遣に関する説明会があり、同年６月に派遣職員募集の通知がありました。当時の応募要件は、採用後３年以上の主事・主査の職員で、クレアが派遣職員の語学力として目標に掲げる各資格試験のレベル達成に向け、自己研鑽できる職員であること等でした。

語学力はすぐには身につきませんので、クレア派遣を希望する人は、早くから少しずつ勉強しておくことをおすすめします😊

※ 一般財団法人自治体国際化協会（クレア）は、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ソウル、シンガポール、シドニー及び北京に海外事務所を設置しています。

言　語	クレアが目標に掲げる 各資格試験のレベル（例）
英　語	ＴＯＥＩＣ７３０点
仏　語	フランス語能力テストＡ２レベル
中国語	中国語能力試験４級
韓国語	ハングル能力検定試験４級